

## 令和3年度 学校運営協議会（第2回）議事録

- 1 日 時 令和3年11月29日（月） 14:15～16:15
- 2 場 所 本校 会議室
- 3 参加者 協議会委員：保護者、地域住民、学識経験者等4名  
本校教職員：校長、教頭、事務長、首席、教務部主任、生徒指導主事、  
進路指導主事、保健主事、生徒会部主任

### 4 内 容

- (1) 委員長挨拶
- (2) 校長挨拶
- (3) 授業見学
- (4) 第1回議事内容確認
- (5) 議 事

#### ◆ 令和3年度 学校教育自己診断について

- ・質問内容の変更：昨年度「体育大会など、学校行事に主体的に関わりたいと思っている。」  
今年度「文化祭など、学校行事に主体的に関わりたいと思っている。」  
(新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年度は体育大会のみ、今年度は文化祭のみを実施)
- ・アンケート結果について現在考察を進めているところ。第3回協議会で考察の結果をお示しする。  
今回は、特徴的な点だけを述べさせていただく。
- ・年度別に比較すると、今年度は生徒、保護者ともに、国際理解、行事などの項目で低い数値となっている。新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な行事やオーストラリア語学研修がなくなったことが影響したと思われる。
- ・1年生の保護者の回答においては、ほぼすべての項目において大きく数値が下がっている。1年生の保護者が学校に求めるものが、これまでの傾向と大きく変わってきているのではないと思われる。
- ・PTA 活動や実習・実験などが多くなされているかという項目で少し低い数値となっている。これについても、新型コロナウイルスの影響で、今年前半、実習・実験が制限され、PTA の社会見学もなくなったことが影響していると思われる。

#### ◆ 令和3年度 第1回授業アンケートについて

- ・第1回の授業アンケートを、7月9日（金）に実施。第2回は、12月15日（水）に実施予定。
- ・データを年度別に比較してみると、「授業に対する生徒の取組」に関する項目については、あまり大きな変化がない。
- ・「授業に対する生徒の評価」に関する項目については、どの項目においても3.5以上であり、昨年

度の第1回と比べて上昇している。

- ・「授業に関する生徒の意識」の項目についても、昨年度の第1回より上昇している。
- ・「授業に対する生徒の評価」、「授業に関する生徒の意識」については、経年比較（去年の1年生→今の2年生、去年の2年生→今の3年生）においても上昇している。昨年度は授業のスタートが6月で、授業が軌道に乗る前に第1回のアンケートを取ることであったため数値が低くなり、今年度は、制限はありながらも、通常通り4月から授業が行えたことも数値の上昇に影響していると思われる。
- ・「教科別比較データ」「学年別比較データ」については、第1回において高くなる傾向がある。各教科の先生が第1回の数値の結果を活かして授業改善につなげることができたのか、という点を第2回の結果で見ることができると考えている。
- ・自由記述欄からは、先生方が取り組んだことがそのまま生徒に伝わっているということが見てとれる。「いい授業をしよう」「わかりやすい授業をしよう」ということが、きちんと生徒に返っていることがわかる。

#### □協議委員からの意見

- ・授業アンケートの数値が非常に高い。生徒の理解度が進んでいる。⑤「プロジェクター等をうまく使っている」の項目の数値が高く、また、先ほど授業を見せていただくと、黒板が全部ホワイトボードに代わっていた。このプロジェクターとホワイトボードによる時間短縮や活用のしやすさが、生徒が授業を理解しやすくなることにつながっている。
- ・学校教育自己診断の結果説明の際に、1年生の保護者が学校に求めているものが変わってきているという話があったが、1年生の授業アンケートの結果を見ると、決してそのような傾向は出ていない。保護者の傾向を分析することも大事だが、学校に来ている生徒を大事にして進んでもらいたい。
- ・アンケートの数値が去年より上昇しているのは、昨年コロナで休校期間があったことも影響しているということであったが、授業の工夫において去年から今年で変化したことはあるのか。
  - 特に大きく変えたということはないが、日々先生方が授業改善の取り組みの中で、今あるものをどのように効果的に活用していくのかということを考えている。今回の一人一台端末の導入についても、それをどのように授業に活用していこうかと前向きに考えられる先生が比較的多い。それが少しずつではあるが授業改善につながっている。
  - 年々先生方が本校の生徒に合った授業をするための工夫を熱心に行ってくれている。昔のチョークと黒板だけというスタイルの授業はない。わからない、理解がなかなか進まない生徒にどうやって理解させてあげるかという思いで、教材研究、授業改善の努力をしている。
- ・先ほど授業見学をして、生徒の授業を受ける姿勢がよくなっているということを感じることができた。ICTについても、先生方が慣れてきたこともあり、活用が浸透してきている。ただ、プロジェクターに映す字の大きさ、濃さが各授業によってまちまちであることが気になった。もう少し後ろに座っている生徒が見やすいように、また、日が当たったところもよく見えるように調整した方がいい。
- ・図書館も見せていただいたが、大変充実しており、だれもが入りやすくなっている。

#### ◆令和4年度 使用教科書選定について

- ・6月～7月に約1か月かけて、別紙資料にある観点に基づき、令和4年度に使用する教科書を選定

した。来年入学する1年生から新学習指導要領に基づく授業が行われることになるので、「現代の国語」「言語文化」「歴史総合」「公共」など新設された科目については、特によく研究をして選定を行った。

#### ◆ その他

##### ○ 観点別学習状況評価について

- ・新学習指導要領が導入される来年度の入学生より、評価の観点が現行の4観点から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に変わり、観点別学習状況評価を行うこととなる。
- ・観点別学習状況評価の導入に向けて、本校においてどのように準備を進めているかを報告させていただく。
  - 1学期…各教科において研究協議、教材の準備、シラバス作成。教育センター指導主事による研修。
  - 2学期…3観点での観点別学習評価の試行。教科を越えた相互授業見学（11月が授業見学月間）。
    - 2学期末の教員研修で、各教科が試行した観点別学習評価やそれを意識して行った授業について報告
  - 3学期…試行結果の検証（現行の4観点でつけた成績との比較）、教務内規の整備
- ・生徒に評価の観点や基準を明確に示せるようにすること、成績算出においてミスを起こさせないシステムの構築が必要。

##### □ 協議委員からの意見

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価については教科間でのすり合わせが必要。また、生徒に対してもていねいな説明が必要。
  - 昨年、観点別学習状況評価をすでに実施している中学校に情報収集に行かせていただいた。生徒の方が慣れているのかもしれない。これからは高校でも、採点の際に観点別に色分けするなどしていく。教員の手間はかかるが、それだけに生徒にしっかりと伝わるようにしないといけない。3観定の比率は1：1：1。実技と座学では違いもあると思うが、今年度中にしっかりと準備を進めていきたい。これまでより、テストの点数が成績に占める割合が小さくなり、授業での取り組みに対する評価の比率が高くなるということも考えられる。不公平感がないようにしなければならない。
- ・中学校では、今年、4観定評価から3観定評価になり、「関心・意欲・態度」が「主体的に学習に取り組む態度」に代わった。従来は提出物を出した回数や出席状況など数字に表れるもので評価をしがちであったが、そういうことではいけなくなった。授業中にどのように取り組んでいるかといったことを評価していくことになるので、教科によって差が出ないように基準を整えていくことがこれからの課題。

##### ○ 生徒一人一台端末の導入と活用について

- ・大阪府立学校では、全生徒に Chromebook を貸与。
- ・臨時休校等における学習保障のみならず、日々の学習の中でも活用していく。
- ・本校では、9月上旬に全生徒分（540台）が納入。10月の中間考査最終日に生徒に配付。11月に自宅で教室からのオンライン授業が視聴できるかどうか確認するための試行。

- ・教科によっては、調べ学習や発表用資料の作成など授業での活用も始めている。今後、情報共有のプラットフォームである Google Classroom の活用も進めていく。また現在、リクルート社のスタディサプリというコンテンツにお試しで無料登録しており、生徒は講義動画を視聴したり、単元ごとの確認問題に取り組むなどしている。
- ・教員用の端末については、昨年度末に府費で 20 台、校長マネジメント費で 5 台を購入。今年度に PTA からの寄贈で 20 台、校長マネジメント費で 5 台を追加購入。全教員への配付が済んでいる。
- ・今後の課題は、生徒の自宅での接続確認と授業での活用促進。

#### ○ 生活指導部からの報告

- ・今年度、1 人当たりの遅刻数が増加傾向。欠席も増えている。新型コロナウイルス関係や体調不良での出席停止があるので、実態が見えにくい。生徒、保護者の学校へ休むことに対するハードルが低くなっている。体調不良と言われた場合、学校も登校を促すことができない。新型コロナウイルスの状況が解消されたときに以前のように登校させることができるかどうかのポイント。
- ・授業中の態度が悪い生徒は減ってきているが、2 学期以降授業についていけなくなり、私語をしたり眠ってしまう生徒が少数いる。そういった生徒については、まずは教科担当からしっかりと指導をしてもらう。
- ・服装、頭髪、化粧に関しても、大きな違反行為は減ってきている。
- ・携帯電話は、校舎内への持ち込みを禁止しているが、家に帰ってからの使用で生徒は色々なところにつながる。いじめには至らなくても、SNS 等で愚痴を言うことなどで他の生徒に嫌な思いをさせてしまうことがある。その場合は、そういうことを書き込むなという指導を行うことになる。今後は、生徒に一人一台貸与された端末の使用法についても注意していく必要がある。
- ・登下校に関しては、休校期間のあった昨年に比べ、事故の件数が増えている。
- ・あいさつ指導や校内巡回など現在成果を上げている指導を続けて行くが、今後の課題として、学校の実態に合わせたルールの見直しを行っていく。

#### □ 協議委員からの意見

- ・生活指導部の細かい指導方針をよく実施してくれている。また、学校教育自己診断で「先生の指導を理解できる」と回答している生徒の割合が非常に多い。美原としてぶれずに懇切丁寧に説明をしながら指導をしてきた結果であると思う。
- ・近隣に大きな商業施設ができるなど、美原高校を取り巻く環境が大きく変わるが、どのように生活指導をしていくのか。  
→学校の帰りに行くなというような指導はしない。校内でしっかり指導をしていれば、すぐ近くの施設で問題行動をするようなことはあまりないだろう。

#### ○ 今後の府立学校のあり方について

- ・府内公立中学校の卒業者数は、平成 26 年度をピークに減少し続けている。今の中学校 3 年生は、昨年度より微増しているが、来年度以降はまた減少し続ける。南河内地区については、今年度も減少している。
- ・それに伴って公立高校への志願者数も減少している。200 校弱の府立高校の内、4 分の 1 の学校は競争率が 1.2 倍を超えており、その内 20 校ぐらいは 100 人～150 人の不合格者を出している。

その一方で、二次入学者選抜後においても定員割れをしている学校が令和に入ってから急増しており、今年度は60校が定員割れをし、美原高校においては90人の定員割れであった。府立高校の中で二極化が起きている。

- その原因は、1つには府の施策として「公私の切磋琢磨」を掲げて、独自の私学助成を行っていること。その結果、一部の人気のある学校をチャレンジ受験する生徒、私立高校を専願受験する生徒が増えた。
- 公私の割合については、かつては7：3にするという申し合わせがあったが、現在はそれが守られなくなり6：4になっている。
- 美原高校では、3年間定員割れが続いている。大阪府には3年連続で定員割れとなった高校は統廃合の対象となるという条例があるが、府全体として見直しの動きがある。これまで普通科の学校の最小学級数は6学級（240人）と決まっていたが、来年度は美原高校を含む数校が4学級（160人）募集となっている。
- 本校は来年度、3学年合計の学級数が今年度よりも3学級減の見込みであり、それに伴って教員定数も減となる。教職員の業務量は、生徒が減ったからといって大きく減少するわけではないので、校内で分掌業務の見直しを進めるとともに、教職員が定数通りに減らされることのないよう府に要求していく。
- 小中学校で支援学級に在籍していた生徒が卒業後に高等学校へ進学することが増えており、美原高校にも配慮を必要とする生徒が在籍している。そうした生徒に対しては、「個別の教育支援計画」を作成し、必要に応じて他の生徒とは別に評価をするなどして、卒業後の就労、就学に向けた支援を行っている。
- 生徒の現状を考えると、現在、国語、数学、体育、英語の1部の科目で実施している少人数授業をもっと拡大していく必要がある。また、学習支援員の活用もさらに進めていく。
- 毎週生徒支援会議を開いているが、発達上の特性や家庭環境において支援を必要としている生徒を含むすべての生徒に学習保障をして力をつけさせて、就労、就学につなげていくのが本校の課題。
- そのためには様々な外部機関との連携を密にしていく必要がある。

#### □協議委員会からの意見

- この3年間で、美原高校の生徒支援の体制は大変進んでいる。その点をもっと中学校で支援学級に在籍している生徒にも知ってもらえるといい。

#### ◇全体を通して委員からの意見

- 授業の様子を見せていただいたが、非常に落ち着いて授業を受けている。ICTの活用についても、学校努力やPTAの協力で設備を整え、授業の質の向上につながっている。大人しい性格の子でも落ちついて安心して学校生活を送れるところが美原高校のいいところ。
- 本日の授業見学や会議を通して勉強させていただいた。年々、先生方の生徒への距離感が近くなっている。先生方が様々な創意工夫をして生徒に寄り添っていると感じた。スポーツで強い部があるとか、何か高校として特徴を出せるものがあるといい。
- 授業見学をして、6限目であったのに寝ている生徒がいなかったのが印象的だった。場を乱すような生徒がおらず落ち着いていた。仕事で国道309号線を通ることがあるが、自転車で並走をしているというようなことがない。指導をきっちりされているなど感じる。

◆ 閉会の挨拶（校長）

- ・ 府全体の大きな流れの中で、広報活動をして生徒を集めるのが難しい面もあるが、本校を必要としている子どもたちが間違いなくいるので、そういう子どもたちを取り込んでいくことが今後の広報活動のポイントになる。たとえ定員割れをしても、入ってきた子どもたちにしっかりと力をつけさせて、安心して学校生活を送らせ、進路に結び付けるというところをアピールしていく。

※第3回は2月上旬を予定。